

施設建築で有用な気密測定

—現場気密測定の無料相談をスタート—

住宅や施設建築など気密測定を行っているEOM（株）が、現場気密測定の無料相談をスタートしました。施設建築関係の方々へ有用な気密測定をご提案します。気軽にご相談ください。

[EOM 現場気密測定 無料相談スタート](#)

気密測定の事例と有用性の紹介を参考にして、気密測定の必要性についてご検討ください。

◆気密測定の事例と有用性

事例1) クリーンルーム

・有用性：気密施工に関する品質管理 {空間全体、ドアなど開口部の立て付け、設備配管類の気密処理、ダンパの密閉度、他}

・解説：クリーンルームは設備の運転により室間差圧を調整できるため、隙間性能面からのダメ探しや品質管理が行われていないことが少なくないと思われます。実際に気密測定を行うと、電線管端部の気密処理が甘い部分から空気流入が発見されることがあります。その気密処理の甘い部分は目視では分からない状況です。

事例2) 原発避難建物対策工事

・有用性：原発有事避難建物の避難空間を陽圧50Paに運転管理する対策改修工事において、陽圧50Paに必要な建築的気密処理、および、空気浄化設備容量の設計資料を得ること。

・解説：原発数十km圏内の集会所など既存建築を非難施設として対策改修工事を行います。既存建築は気密性が高くないこと、空間が大きいことから、気密測定器を最大6台まで同時運転した事例があります。

事例3) インフルエンザ対策の加湿が効かない

有用性：大きい隙間の発見（調査）

解説：保育園の事例で、インフルエンザ対策として加湿を行うが、室内の湿度が上がらない。気密測定を利用しながら原因を調査したところ、保育室が、天井裏空間の隙間を通じて、換気量の多い玄関ホールとつながっていることが大きい原因だと分かりました。



▲クリーンルームの気密測定



◆



▲保育園の気密測定

事例4) 気密部材の性能試験

有用性：気密部材の相当すき間面積が分かることにより、建築空間など総相当隙間面積の設計資料になり、施工後の気密測定で品値管理の目安として利用できます。

解説：パネルの合わせ方、釘やビス止めのピッチ、パッキン材、テープ貼りなど、性能試験や研究論文による性能データを利用して、建築全体の総相当隙間面積が設計可能になります。

事例5) 自動車の気密測定

有用性：気密性能を相当隙間面積で把握することにより、性能表示が分かりやすいこと、部分的な仕様検討を行いやすくなります。

解説：自動車の電動化などにより、車内静穏化の要求レベルが高まっているため、気密測定が有用になっています。自動車向けの気密測定器は、住宅向け気密測定器（小口径φ100mm）で対応できている現況です。

◆気密測定導入の提案

“相当隙間面積”は、直感的に分かりやすい気密性能の表し方です。その気密性能は設計や施工上の品質管理にも利用できることから、今後の施設建築などの設計施工において、気密測定を利用するメリットは大きいと考えられます。

同時に、一般の方や現場関係の方々にもわかりやすい気密測定を導入することで、施主の安心材料のひとつになり、施工品質を一定レベルにする効用が期待できます。引いては、現場立ち合いの機会へ減らすことにつながり、新型コロナ感染防止策のひとつになります。

EOM(株)では、現場気密測定の無料相談をスタート。気軽にご相談ください。

[問い合わせ先]

EOM株式会社 担当：駒野清治

[住所] 〒434-0036 静岡県浜松市浜北区横須賀 639-9

[電話] 090-2939-7725 [FAX] 053-533-3986

[Eメール] dolphin.eom@outlook.jp

[Web] <http://www.sunqeom.jp/>



▲気密部材の性能試験



▲自動車の気密測定